

大阪

おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)
毎日新聞社社会部おおさか支局
TEL 06-6346-8443
FAX 06-6346-8444

メールアドレスは at-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げたいテーマなど、お寄せください。
【購読お申し込み】
フリーダイヤル 0120-468012

★牡羊座 (3・21~4・19)
人間関係好調。久しぶりの信
頼の絆が太く結ばれそう。
★牡牛座 (4・20~5・20)
いつもの事に飽きがきそう。
画期的な行動が幸運の鍵。
★双子座 (5・21~6・21)
個性が光るとき。ワガママも
魅力のうちに入ります。

福祉・保健	まち・雇用	環境・資源	子ども・教育	国際・共生
-------	-------	-------	--------	-------

原発被災地の子を笑顔に



高槻 保養キャンプ・プロジェクト

福島第一原発事故が起こり、被災地の子も
たちを心配した高槻市周辺の市長らが2012
年10月、たかつき保養キャンプ・プロジェクト
をつくった。子どもたちを受け入れ、自然
の中でキャンプや遊び、大阪の観光などで約
一週間を過ごす。今年も7月28日~8月3日に、
第3回キャンプを予定している。
はじめは高槻市内のカフェ。理事長の
松野尾かおるさんの雑談だった。「この近く
で福島の子どもの保養をやりたいね」でも、
宿泊場所がないね」
店によく来る信長がそれを聞き、「夏休みな
ら倍られるだろう」と近くの学校送人・行信
教校(信長養成の学校)を紹介してくれ、学校
も施設使用を快諾した。5人が実行委員となり、
翌年夏にキャンプを開催すると目標を定めた。
しかし、子どもたちの福島・大阪往復、滞在
中の食事、寝起き、遊び、そのすべてにわたる
安全確保には、多くの人手が必要だ。ロミと
駅前のもみ配りなどでボランティアを募る
と、実行委員は5人が10人、30人と増え、第1
回キャンプ直前の13年7月には50人になった。
幼児から中学生までの13人と保護者4人を招
いて7月から8月、6泊7日のキャンプを無事
終えた。関わったボランティアは約10人に
達した。
2回目以降は、若者が準備段階から加わり始
めた。事務局には塚田彰さんが入り、お姉さん

幅広い世代で受け入れ



後「子どもリターン」に、20代7人のほか、
地元の高校生も参加した。
子どもたちは「大阪のたこ焼きはやっぱりお
いしかった」「来てとてもよかった。外で安心
して遊べるから」などと感想を寄せた。保護者
松野尾さんは「ただいま福島原発で事故が
起きた。お祭さんとして迎えるのではなく、福
島のひとたちと一緒にキャンプを作っていた
とって心の栄養になりました」。
今年のキャンプの前に、府立芥川高校の和太
鼓部などが支援のためのチャリティーコンサ
ートを開いてくれた。演奏の音には生徒が一原
でひとたび何か起こると取り返しがつかない。
保養が必要にならないような環境を作りたい



受け入れに関わる人は10~90歳代。塚田さん
は「さまざまな仕事をしている人と出会う中で、
たかさんの発見があって楽しいと話している。
松野尾さんは「ただいま福島原発で事故が
起きた。お祭さんとして迎えるのではなく、福
島のひとたちと一緒にキャンプを作っていた
いと意欲を見せる。今夏のキャンプに向け、
ボランティア、資金カバを求めている。
20日午後6~8時、高槻市紺屋町のクロスバ
ル高槻で、福島県いわき市の老舗旅館主・里
見喜生さんのお話を聞く会を開く。未来の子ど
もたちを念頭に復興支援活動をしている里見さ
んに「今、福島から伝えたいこと」を話しても
らう。資料代500円、避難者・高校生以下無
料。
【大島秀利】

たかつき保養キャンプに参加し、野外で食事を取る子どもたち 高槻市の摂津峡で昨年7月

保養キャンプ
原発事故による放射能汚染地の子
どもたちが、一時的に非汚染地域で暮
らして、心身ともにリフレッシュを図る取り組み。
み。1986年のチェルノブイリ原発事故で、
ベラルーシ政府などが国費で年に複数回、子ども
たちを避難地で保養させて被ばく量を減らす
制度を作ったのが始まり。3・11直後から、市
民によって全国各地で取り組みが続いている。

今夏の保養キャンプの計画を話し合う松野尾さん(左)と塚田さん=高槻市内で